

第1学年

話すこと・聞くこと

状況に応じて話を構成して話し、自分の考えとの共通点・相違点を整理して聞くこと

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

論題…『学校の昼食は弁当が良い。賛成か反対か。』

「お弁当がよいと思うのは、自分の好きなものが入っていたり好きな量だけ食べられたり家の人の愛情が感じられたりするときによいと思います。なぜなら、自分の好きなものが入っていると嬉しいし、食べていて楽しいからです。給食だと残したらいけないから食べられないと思った時に、お弁当だと残しても大丈夫だからです。頑張って作ってくれている家の人の姿をみると愛情が感じられます。」

聞く側はメモを取っていない。

情報量が多く、聞きやすい発言ではない。

実践の概要

単元名

話題や方向性を捉えて話し合おう

『話題や方向性を捉えて話し合おう』光村図書

目標 集めた情報を整理し、自分の発信した情報が説得力をもつように話す。

メモを取ることで相手の伝えたいことの要点を逃さずに聞く。

内容 ・自分の意見に合った資料を集める。

・伝えたい内容を整理する。

・模擬ディベートを行い、話し方・聞き方を確認する。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう	相手や場に応じて自分の考えを工夫して話し、相手の表現から自分の考えをよりよいものにするように聞くことができない。
第2学年	登場人物の立場を理解し、心情を話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を具体的にし、話し合い等で自分の意見を整理して伝えることができない。 相手の意見を踏まえて自分の考えをもつことができない。
第1学年	話題や方向性を捉えて話し合おう	話す側に情報量の過不足があり、聞く側にも情報をくみ取る姿勢に不足がある。

単元末の目指す姿

- 自分の意見を明確にし、体験・資料などの事実に基づいて意見を発表することができるようになる。
- 相手が発表する際、必要に応じてメモを取りながら、相手の伝えたいことに注意して聞くことができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

ワークシートを用いて集めた情報をまとめ、意見や根拠として発言の内容を整理させる。

活動のねらい▶ 伝えたいことに基づいた情報になっているかどうかを検討することができる。

ここがポイント

- テーマについて意見を一致できるように、立論文の骨子を班員全員で考える。
- 立論したものを軸にして意見や予想される反論を考える。
- 相手の発言を想定し、考えられるパターンをすべて書く。

ワークシート

			骨子
			根拠となる情報
			予想される反論
			反論に対する意見・情報

※個々の情報だけでなく、「骨子」「情報」「反論」「意見」がつながっているかどうかについても検討する。

(期待される生徒の姿)

生活体験や資料から考えた自分の意見を書き、班内で意見交換をすることで、資料のとらえ方や自分の意見を深めることができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★深い学びにつながる実践

ディベート本番に向けて、グループで練習し、情報の提示のしかたなど、相手を説得させるための発言になっているかどうかを検討する活動を取り入れる。

活動のねらい▶ 相手を説得するための話の構成や内容について理解を深めることができる。

ここがポイント

- 逆の立場に立って聞き、説得させられる内容になっているかどうかを検討させる。
 - グループで検討する前に、既習事項を想起させ、「構成」「情報量」「話し方」等、検討する視点を確認する。
- ※情報量が多すぎると主張が伝わりにくくなることを確認する。

グループでの練習

逆の立場になって聞くと、その情報だと納得しないと思う。



先に結論を述べて、順序を表す接続語を使っているから、伝えたいことがわかりやすい。

(期待される生徒の姿)

- 反対の立場からの意見も考えることで、どのような意見を提示すれば相手を納得させられるかという見通しをもつことができる。
- 検討を通して、自分の発言を客観的に振り返り、ディベートに反映させることができ、深い学びにつながる。

第1学年

書くこと①

日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

書く問題は苦手だから、やめておこう。



「学校」というテーマだけど、どんな内容を書けばいいのかな……。

- 協力校で実施したつまずきの調査問題では、「書くこと」の領域で解答する問題は無解答率が高くなる傾向にある。
- 自校での作文についてのアンケートでは、「作文を書くときに困ること」として、55.0%の生徒が「どんな内容を書けばよいかわからない」を挙げている。

実践の概要

単元名

小学6年生に向けて学校紹介文を書こう

「学校新聞の記事を書こう」東京書籍

目標 小学6年生に向けて学校紹介文を書く。

内容 • 樹形図を使い、学校を構成する要素を項目立てて整理する。

• 紹介したい事柄をできるだけ多く考える。

• 考えた事柄を交流する。

• 挙げられたものの中から1つを選び、紹介文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	2つの異なる考え方の文章を比較しよう	異なる考え方を取り入れ、自分の考えを深めていくことができない。
第2学年	様々な方法で資料を集め、スポーツについてのレポートを書こう	複数の資料を集め、それらを比較・検討して自分の考えをまとめることができない。
第1学年	小学6年生に向けて学校紹介文を書こう	書くことに苦手意識をもっており、テーマについて様々な角度から自分の考えを書くことができない。

単元末の目指す姿

- 課題について整理することで、進んで作文に取り組むことができるようになる。
- 他の生徒の意見を知ることで、自分の考えを広げ、新たな視点で物事を考えられるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫①

樹形図を用いて構成要素を整理させる。

活動のねらい▶ 物事を考える際に、様々な視点があることに気付かせる。

ここがポイント

- 「学校」という大きなテーマを、生活・人・環境という項目に分ける。
- それぞれの項目について、例えば「生活」ならば、「学校での生活では、みんなはどんなことをしているだろう?」といった問いかけをし、授業や行事、部活動といった、具体的な下位項目を考えさせる。

樹形図を使い、項目立てて整理する



分類されているから、それぞれのつながりがわかりやすいな。

(期待される生徒の姿)

大きなテーマも項目に分けることで具体化できる。また、課題について、様々な視点から見て文章を書くことのできるのだという気付きにつながる。

つまづき解消に向けた指導の工夫②

★対話的な学びにつながる実践

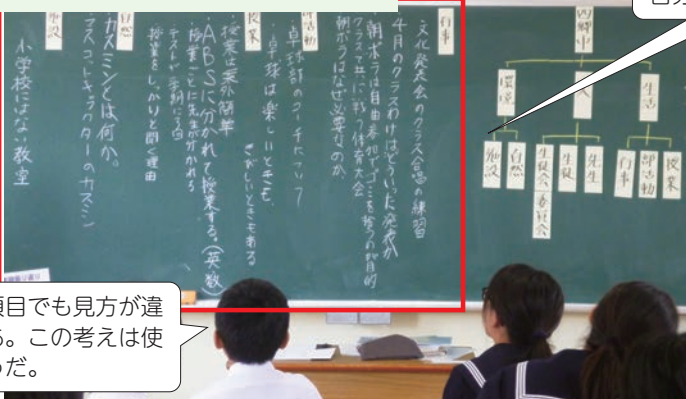
様々な意見を板書し、交流させる。

活動のねらい▶ 多様なものの見方に気付かせる。
• 書く内容を考えにくい生徒も、出た意見を参考にして考えられるようにする。

ここがポイント

- 樹形図にまとめた一番下位の項目について、具体的にどのようなことを6年生に紹介したいと思うかを、一文でノートに書かせる。
- 3つ以上書けた生徒からノートを点検し、その中からなるべく多様な意見を取り上げて、黒板に板書させ、全体で交流する。
※出た意見を参考にして考えてもよいことを伝える。

紹介したい事柄を黒板に書く



同じ項目でも見方が違うなあ。この考えは使えそうだ。

(期待される生徒の姿)

できるだけ多様な意見を取り上げ、それをクラスで交流することで、考えが広がり、それをいかして紹介文を書くことができるなど、対話的な学びにつながる。

書くこと②

第1学年

「根拠・理由」を明らかにして、説得力のある文章を書く

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

根拠や理由を明らかにして、筋道の通った文章を書くことができない。

考えと理由の入り交じった文章を書くことはできるが、接続語を用いて筋道立てて書いたり、段落構成を意識して文章を書いたりすることができない。

【生徒作文】 * 作者が伝えたかったことを考えよう

作者は作品の中で、ヒロシマ、ナガサキ、ヒロユキを全てカタカナで書いて、そこを強調していると思ったので、戦争によって若くして亡くなった人々のことを一生忘れてはならないことと、戦争は一生してはならないということを伝えたかったのだと思います。

「大人になれなかった弟たちに……」（光村図書1年）

実践の概要

単元名

いにしえの心にふれる

『蓬萊の玉の枝 — 「竹取物語」から』 光村図書

目標 「竹取物語」が千年以上にもわたって語り継がれている理由を考え、筋道の通った文章にまとめる。(3段落構成、接続語を用いる。)

内容

- ・ストーリーや人物設定、心情描写などに着目し、「竹取物語」の魅力を整理する。
- ・班で交流する。
- ・「考え」「根拠・理由」「まとめ」の3段落で書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	慣用句・ことわざ・故事成語	論理の展開を工夫して、筋道の通った文章を書くことができない。
第2学年	論理をとらえて	筆者の主張に対し、根拠を明らかにして反論する(否定的な)文章を書くことができない。
第1学年	いにしえの心にふれる	根拠や理由を明らかにして、筋道の通った文章を書くことができない。

単元末の目指す姿

- ・①考え、②根拠・理由、③まとめの順で、筋道の通った文章を書くことができる。
- ・考えと根拠を羅列するのではなく、接続語を効果的に用いて書くことができる。
- ・根拠の提示の仕方によって説得力に違いが生じることを理解して書くことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

★深い学びにつながる実践

作品の面白さや魅力について自分なりの考えをもたせ、その後、班で交流させる。

活動のねらい▶ 多様な考え方があることを知り、自分の考えを伝えようという意欲が高まる。

ここがポイント

根拠となる出来事や文、言動などを教科書だけでなく関連資料（図書室の本、インターネット、絵本、資料集等）からも探させる。これにより教材への関心が高まり、多様な視点から教材を鑑賞することができる。また、調べたことや考えたことを文章にまとめて友達に伝えようという意欲につながる。

資料を根拠にした考えの交流



「ありえへん！」っていう出来事が次々に起こるのが面白いね。

かぐや姫の感情も豊かでいいね。

(期待される生徒の姿)

- 考えの裏付けとなる根拠について話し合わせることにより、多様な考え方にふれることができる。また、教科書以外から根拠を探し出すことにより、考えに具体性や客観性が増し、説得力のある文章を書くことにつながる。
- 複数の資料を用いて、比較したり関連付けたりしながら、論を説明するために必要なことを考えることができ、深い学びにつながる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

- 「はじめ」（考え）→ 「中」（根拠・理由）→ 「終わり」（まとめ）の3段落で書くよう指示する。
- 段落のはじめに、接続語を用いるよう助言する。

活動のねらい▶ 段落のまとめりやつながりを意識して、論理的な文章を書く。

ここがポイント

根拠・理由を複数挙げさせ、どの順で用いると良いか検討することにより、論理的な文章展開や接続語を意識するようになる。また、「3段落構成で」と構成を指示することにより、段落ごとのまとめりや内容が明確になり、すっきりとしたわかりやすい文章になる。

生徒作文

*「竹取物語」の魅力を考えてよう！

「竹取物語」が千年もの間語り継がれてきた理由は、空想と現実がほどよく合わさった物語だからだと思います。

例えば、現実的な点でいうと、かぐや姫に言い寄る5人の貴公子は実在する人物をモデルにしている、その人達の言動も人間らしく描かれています。また、非現実的なところは、竹の中に三寸ほどの子どもがいたり、月から天人が迎えに来たりするところです。

このような理由から、これから先も「竹取物語」は語り継がれていくと思います。

読むこと①

第1学年

論説文を再構成し、本文の要旨をつかもう

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

②③①の順序で並べるといいんじゃないの？
順序なんて関係ある？
小学校の時にやったことあるけど、あまり覚えてないなあ。



出典「自分だけの宝物」

③ 他人から見たら紙切れだけ
ど、僕にとっては大切なもの。

② 賞状はうれしさを思い出させてくれる。

① 一つの賞状アルバム

問 次の文章を段落の内容を考え、並べなさい。

実践の概要

単元名

わかりやすく伝える

『ペンギンの防寒具』三省堂

目標 段落相互の関係を考えて読むこと。

- 内容
- 「本論」→「結論」→「序論」の順序に本文を提示し、本文を再構成する。
 - 順序の根拠をグループで交流させ、1つの仮説を立てる。
 - 本来の本文の順序を提示し、筆者の考えをグループで推論する。
 - 学習した説明文の形式を使って作文を書く。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	学びの扉をひらく	書き手のものの見方や考え方を伝えるための、論理の展開の意図を読み取ることができない。
第2学年	分析的に考える	叙述の順序が書き手の考えにどのような説得力をもたらしているのかを考えながら読むことができない。
第1学年	わかりやすく伝える	文章の構成や段落相互の関係を考えて読めていないために要旨がつかめない。

単元末の目指す姿

- 順序の根拠をグループで交流し、仮説を立てていく中で、キーワードに注目することや、段落相互の関係を考えられるようになる。
- 習った形式で作文を書かせることにより、筆者の意図に近付き論説文の構成を学び、読解力を身に付ける。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

★主体的な学びにつながる実践

段落の順序を変えた文章を提示し、正しい順序の根拠を考え、グループで交流させる。

活動のねらい▶ キーワードや、段落相互の関係を手立てに構成を考える。

ここがポイント

本文の順序の根拠をグループで交流し、正しい順序について仮説を考えさせることにより、段落相互の関係を深く読み取ろうとする態度が身に付く。また、相互の関係を読み取るときに、キーワードを根拠として仮説を立てていくので、論理的な読みに近づく。

構成順序についての検討



この文が、筆者の一番言いたいことのはず。ということは、ここが結論じゃないかな。

本論でも、この段落は話の展開をしている内容になるな。

順序を表す言葉を手がかりにするとわかりやすいぞ。

(期待される生徒の姿)

- グループで考えを比較したりまとめたりすることを通して、根拠が整理される。
- 自分達で構成の配列を考えた後に本文の学習を行うことで、課題解決に向けた見通しをもつことができ、主体的な学びにつながる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

習った説明文の形式を使って作文を書かせる。

活動のねらい▶ 筆者のものの見方やとらえ方の追体験を通して、論理的な文章の構成を理解し、読解力を高める。

ここがポイント

筆者の論理の展開を模倣して生活作文を書かせることにより、筆者の工夫、ものの見方やとらえ方を知ることにつながる。そうして追体験させていくことで、筆者の意図に気付き、読解力を高めることができる。

説明文の形式を活用した作文メモ

【作文メモ】
題名「山登りの達成感」
序論 うれしさのしくみ
本論1 仲間との絆
本論2 自分に対する自信
本論3 頂上の景色
結論
• 仲間との絆
• 自信
• 壮大な景色
を味わうことにより達成感を感じている。

(期待される生徒の姿)

筆者の論理の展開を模倣することにより、段落ごとの内容や段落相互の関係をより深く考えられるようになる。

第1学年

読むこと②

登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解すること

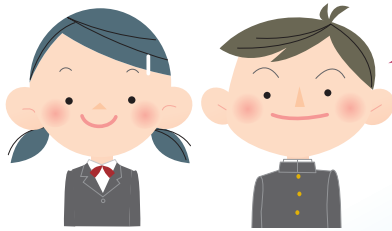
つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

登場人物の行動描写から心情を的確にとらえることができない。
(初発の感想から最終場面のとらえ方に個人差が見られる)



全文を読んでみて、
気になった一文を抜き出し、その理由を書きなさい。



「指で粉々に押し潰してしまった。」

- 大事にしていたチョウをなぜ粉々にしたのかわかりませんでした。
- エーメールに冷たい目で見られ、どうしようもなく、つぶしたのだろうか。
- とても珍しいチョウなのに、押し潰したことが気になりました。
- 何もかも終わったと感じたから、潰したのだろうか、もっと詳しく知りたい。

実践の概要

単元名 作品を読み解く 『少年の日の思い出』 東京書籍

- 目標** 最後の場面で、「僕」がチョウを押し潰した行動について考える。
- 内容**
- 「最後の場面」の音読を繰り返し、「僕」の告白に対する「エーメール」の反応と、そのときの「僕」の思いをとらえる。
 - 「僕」がなぜチョウを粉々に押し潰してしまったのか、意見の交流をする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容 (単元名)	つまずきの実態
第3学年	関係を解く	登場人物の設定や心情・情景の描写から作品の主題を理解することができない。
第2学年	描写を味わう	場面の展開をとらえながら、文章全体のつながりを考えることができない。
第1学年	作品を読み解く	登場人物の行動描写から心情を的確にとらえることができない。

単元末の目指す姿

- さまざまな形態での音読を繰り返すことで内容の理解を深め、自分の力で発問に対する考えをノートに書くことができる。
- 人物の行動描写について読み解く発問に対して、ペア交流や意図的な指名による全体交流で出た意見をメモする活動を通して、深く考え、主題をつかむことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

さまざまな形態の音読をリズムよく繰り返す。

活動のねらい▶ ・繰り返し音読させることで、文章内容を十分に理解させる。

ここがポイント

1時間の授業で、音読の時間を10分から15分とる。教師の範読、ペアでの音読、一斉音読、個人音読、発問に直接つながる部分の繰り返し音読、指名音読など、さまざまな音読パターンを授業展開の中にリズムよく取り入れていく。

授業の様子



繰り返しの音読をさせる際は、リズムが大切です。間髪入れずに、次の指示を出すことで、集中力がぐんと高まります。



つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

描写をもとに、登場人物の行動の背景にある心情を考え、交流する。

活動のねらい▶ ・行動描写をもとに登場人物の心情をとらえるようにする。

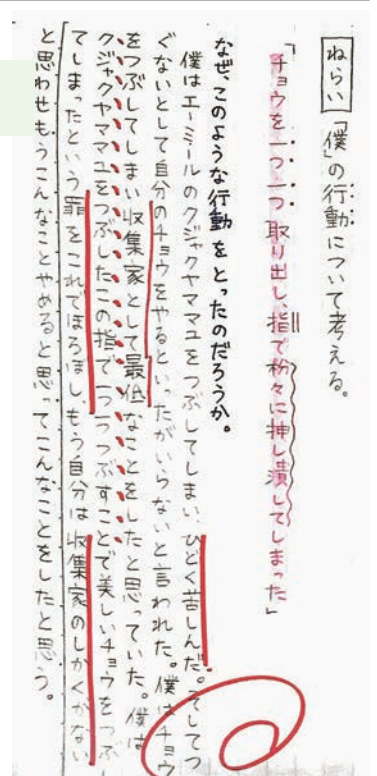
実際のノート

ここがポイント

- 主人公がどういう思いだったかを推測させ、何度も読み返させながら、その思いが表れている部分を探す。
- 探した叙述をもとに、推測した主人公の思いを加筆・修正する。
- 5行程度で簡潔に自分の考えを書くように指示をする。
- 各自の考えを交流し合い、相互評価する。

(期待される生徒の姿)

- 最初に自分が推測したことに基づいて登場人物の行動の意味を考えることで、一貫性をもたせることで、心情描写と行動描写を結び付けて考えることができるようになる。
- 交流・相互評価する中で、自分の考えを客観的に見直すことができ、理解を深めることができる。



伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

第1学年

語感や語彙を豊かにすること(芸術作品の鑑賞文)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか?～

語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

「とても」「きれい」「いい」などの形容詞や「～思う」の文末表現の多用。

私がこの絵を見て思ったのは、主役が『紅葉』と『夕暮れ』だということです。なぜなら、赤やオレンジ、黄色などの暖色が多く使われているからです。あと、もう一つ思ったことがあります。それは、寂しい感じだということです。なぜなら、この絵の中には、人間や動物が描いてないからです。

この絵は、紅葉や夕暮れなど、さつき書いたことを含め、とてもキレイでいい作品だと思いました。

実践の概要

単元名

芸術作品の鑑賞文を書こう！

『芸術作品の鑑賞文を書く』教育出版

目標 芸術作品を鑑賞し、自分が選んだ絵の魅力を鑑賞文で伝える。その過程で、類義語辞典や国語辞書、パソコンを使って類義語を調べ、言葉に対する興味をもち、語彙を増やす。

- 内容**
- いくつかの観点から絵を鑑賞し、絵の魅力を言葉にする(マッピングを書く)→マッピングの意見交流。
 - 鑑賞文を200字で書く。
 - NGワードを伝え、違う表現を辞書等で探し、推敲する。
 - 同じ作品を選んだ者同士で意見を交流する。
 - 推敲前と推敲後の印象に違いがあるかを考える。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容(単元名)		つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもち、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にいかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- 言葉の多様性や奥深さに気付くことができるようになる。
- 自分の語彙数の少なさに気づき、言葉に関心をもつことができるようになる。
- 辞書やパソコンを使って、意欲的に類義語を探すことができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ①

類義語を調べる際に、どの言葉が作品の魅力や、自分が表現したいことに的確かを吟味させる。

活動のねらい▶ 辞書の内容を吟味し、表現することによって、言葉を理解し広げることができる。

ここが
ポイント

類義語辞典やパソコンを使い、たくさんの類義語があることに気付かせる。その中から、自分が表現したいことを的確に表している言葉を考え、選択することができるようにする。

表現したいことに適した言葉探し



「あたたかい」の類義語はどれかな？
どの言葉が一番ぴったりくるかな？

(期待される生徒の姿)

辞書やパソコンを使って調べたり、互いに話し合って類義語を出し合う中で、表現を豊かにすることのよさに気付くことができる。

つまづき解消に向けた指導の工夫 ②

同じ視点から鑑賞文を書いた者同士でグループを作り、推敲させる。

活動のねらい▶ 同じ視点のグループにすることで、伝えたいことと表現の関連をより意識して推敲することができる。

ここが
ポイント

- 「自分の考えを表現するために、適切な言葉が用いられているか」という視点に沿って、言葉を吟味するように指示する。
- 検討する言葉について、複数の案を出し合い、それぞれから伝わる印象を話し合わせることで、言葉に対する意識を高める。
- 推敲後には、自分の文章を再度見直し、どのように印象が違うかを考えさせる。

グループでの推敲



似た意味でも、言葉が違
うと、伝えたいことの印
象が変わってくるなあ。

推敲後の方が、言葉の意味が深まって、
絵の魅力がよく伝わるね！

(期待される生徒の姿)

同じ絵を選んだ者同士で、意見交流を行うことで、違う意見に触れ、自分の表現の仕方を客観的に見直すことができるようになる。